

子どもたちの明日

Children, Our Future



目次

- ・ やっと村の幼稚園ができた！（1） 1頁
- ・ CYKの役割と課題：健全な成長と自立に向けて 2頁
- ・ 絹絵餅・ピダンの織手ペッ・キムさんのこと 4頁

1 やっと村の幼稚園ができた！（1）

去年12月、カンダール州で二つの村がそれぞれ幼稚園を開きました。リアンチュー村とカオムサムノルー村です。村の父兄をはじめ、村委員会、小学校の先生、郡教育局などの熱心な働きかけに応え、CYKが3年間支援する幼児教育施設です。ようやく念願がかない、喜び張り切る関係者の声を聞いてください。

「幼稚園ができてほんとに嬉しい。これまでは6歳未満児をたくさん預かっていました。断れなかったのです。小学校の先生は男で幼い子の扱いに苦労しましたが、今は楽です。一人、幼稚園に慣れずに泣く子がいました。甘やかされて育った村長の孫です。泣いてばかりいたのが、CYKの人形で遊び始めてもう泣きません。子どもたちは教材が大好きです。村の幼稚園の運営については、開園前に保護者に説明をしました。保護者負担の協力金についてもわかってくれ、みな喜んで協力しています。親は半日子どもを預ける間、畑仕事ができるからです。いま幼稚園に通う子は、小学校に上がっても教えやすいはず。CYKに感謝しています。」リアンチュー村小学校・校長フィン・サリン



12月からカオムサムノルー村幼稚園に通う5歳児（左端）と家族。

「最初は子どもたちがめちゃくちゃで、話を聞かず友達と遊ぶだけでほんとに困りました。疲れ果てて、2-3日目には辞めたいと思いました。でも考え直して頑張ることにしました。今は面白くなってきました。親たちは協力的で、子どもを朝連れてきた時に園児を見てもらうこともあります。みな協力金を払うので助かるし、応援されて嬉しいです。」リアンチュー村幼稚園・保育者マウ・チャンディ、22歳

「とにかく子どもが多過ぎて、43人いるけれど、受けないと親たちに叱られるので仕方ありません。最初、子どもたちは蟹みたいで、バラバラになって話を聞こうとしないし大変でした。テーブルは小さくて喧嘩になるので、今はゴザを使っています。最初の子たち37人が、ようやく私のことばが聞けるようになったのに、新しく6人が入りまたうさくなりました。慣れるまでちょっと時間がかかります。カリキュラムの時間は守られていません。活動は決めた通りにできても、時間の方はそういかないのです。協力金は半月ごとに払う人や、毎

月払う人などいろいろです。親たちが感謝して、協力するといわれると嬉しくて、疲れていても頑張る気になります。」カオムサムノルー村幼稚園・保育者レン・シナー、21歳

「これまで地区に幼稚園がなくて、7歳の長女は幼稚園に行ったことがありません。次女（5歳）は運よく幼稚園に通っています。三女は1歳です。幼稚園があると子どもを半日預けられ、とても助かります。協力金の月4,000リエルは払えない額ではありません。」カオムサムノルー村幼稚園児・レン・ヴィサル（写真左端の子）の両親。畑にパイヤ、バナナなどを育てる。

「長男（4歳）と次男（6ヶ月）がいます。2-3ヶ月毎の収穫で、支出を引いて平均22万円（3月4日現在）程の収入があるので、協力金の4,000リエルは安いと思う。欲しかった幼稚園で息子を入れられるのが本当に嬉しい。息子は幼稚園が好きで、帰ってくると『ただいま』と言ってくれます。」カオムサムノルー村幼稚園児・ソピアーニット・ダヴィットの両親、農業。

2 CYK の役割と課題：健全な成長と自立に向けて

CYK（プノンペン事務所）の使命は、戦乱や災害、貧困などによる厳しい環境にあっても、幼い子どもたちが健やかに成長できるよう、また保護者や地域住民がいたわりのある環境で自立できるよう支えることです。キーワードは「健全な成長と自立」です。では現在のカンボジアで、CYKは「健全な成長と自立」をどう実現するのでしょうか。

村の幼稚園の開設

ここでは地域の方で幼稚園（半日保育）を開けるよう助け、3-4年後には地域で自ら施設の運営ができるようにします。カンボジア政府の貧困対策に成果は出ていても、CYKが幼稚園を開いている9村は貧しい村々です。2012年度の貧困層は全体の18.6%に下がりました。しかし810万人以上が貧困に近い暮らしで、真の貧困者は約300万人を数えます。この約9割は地方に暮らしています（世界銀行2014統計）。地方人口の健康状態や生活水準が改善され始め、子どもが通える学校への強い要望が出ています。政府は幼児教育に高い優先順位をつけていますが、対応は不十分です。しかし地域社会のほとんどが、幼児教



写真1：読み聞かせの話に心を奪われる子たち。カンダール村幼稚園、タケオ州

育は進学前の基礎教育として子どもの健全な成長に必要と考えています。こうした国民の要望に応えきれない教育省は、特定のNGOに地域を主体とした幼稚園の設置を強く勧めてきました（子どもたちの明日112号2頁、教育省幼児教育局局長インタビュー参照）。これまでに開いた幼稚園（半日保育）はまだ9カ所の村に限られますが、今後、数を増やして力を入れたいのは、これらの村の幼稚園を他の村や地区、州での模範施設とすることです。

幼稚園を開く村や地域の選び方も大切で、地元は幼稚園に強い関心を持ち、その開設にコミットしていなければなりません。地元の公約が幼稚園の運営委員会、地区評議会の協力を裏付けます。また運営委員会は日中保育の場となるスペースを確保します。CYKは教材・遊具を配り、専用トイレ（写真3）・手洗いセットを地域の手で設置できるよう資金協力をします。村の幼稚園は発端から地域に属すもので、村には運営の責任と権利があります。

写真2：妹（左）が通う村の幼稚園を見に行きたいという姉（小学2年）。カオソムノル村、カンダール州



写真3：支援者の協力で完成したトイレ。青いドアの色がまぶしい。カンダール村幼稚園、タケオ州



保育者の給与や園児の確保・支援もその範囲にあると理解されています。地域による教室の提供は責任の所在を示す大事な証拠です。CYKの役割は開設から3-4年間、運営資金の拠出、保育者養成、教材提供、定期的モニターや村の委員会との協議に関わることです。CYKの課題は、地域の幼稚園自主運営の持続です。これは単に自主運営できればよいだけでなく、運営の仕方によって質の良い教育を受けられるようにし、園が他の施設の手本となるように方向づけます。教育の質は、さまざまな角度から捉えた指標で判断します。例えば、子どもの出席率、保護者による経費・食糧負担の度合い、保護者会への出席率、読み書き能力達成の度合い、などが実績になります。現在CYKの管轄で機能している9カ所の村の幼稚園では、すでにデータを整えて試しています。CYKが今後、教育省と密接に協働してさらに経験を積み、取り組みには変化が表れ、展開の可能性は出てくるでしょう。ともあれ現状では自主運営の取り組みは成功しているといえます。

難しい保育センターの自主運営

CYKがカンダール州で保育事業を始めた20年前、貧しいこの地域での自主運営は考えられませんでした。しかし、20年の間に開発が進み、最近では村の周辺に縫製工場ができました。

以来、村人、ことに女性たちが職につき定期収入を得ています。共働きの親たちにとって、昼間子どもを預けられる保育センター（終日保育）は貴重です。二つある保育センターでは、子どもや働く親のニーズを汲み取りながら、健全な発育について地域と共に考え実践しています。貧しい地域ですがその運営を村の委員会が取り仕切り、CYKは運営面や補修などの責任が果たせるように働きかけます。村人の貢献度は高く協力はあるものの「自立」までのプロセスはゆるやかです。

CYKが力を入れるもう一つの事業は織物です。事業の目的は二つあり、織り手の技術支援と養成で身につけた経験を生かして家族を養う収入源とすること、もう一つはクメールの伝統織物の普及（写真4）です。CYKにとっての理想は、織物製品の販売収益で織物事業を支える方法ですが、これの実現は近い将来ではなさそうです。織物事業は織り手の自活も支えます。例えば、日本に向けた高級絹帯地（写真5）制作は8人の織り手によるもので、他の織り手も日本・カンボジアなどの市場にふさわしい製品を作っています。CYKの織物製品の収益はすべて織り手に還元されます。今年はオンラインによる販売網も開拓します。また、CYKや他の織物組織の依頼でクメールの伝統絵柄織の技術指導や新しい織り手も育てています。CYK/CYR

両事務所は、昔、寺院に奉納された伝統絹絵柄ピダンの技術保持を目指し、販売網を活発に開拓しています。カンボジアの豊かな伝統的織物の真価が再発見されるにつれ、高レベルのイベントでピダン展が評価されています。販売率もすこしずつ伸びているのは、ひととき優れた織物の価値が理解されてきた証拠です。

カンボジア事務所の新しい出発

CYKとその母体CYR（東京事務所）は、24年にわたるカンボジア事業から多くを学んできました。政府の野心的な開発目標による国の発展は急速でも、地方にはたくさんの貧困の問題が残されています。しかし各地に希望と活力が見えているのは事実です。CYKは、住民の自主運営に効果的なサービスを進めるという政府の方針に沿い、要請を受けて支援をしています。ことに、手が回りにくい公立地域幼稚園の教員養成、公立施設に必要な教材・遊具の提供をも含め、保育施設を増やすためのネットワークの拡大には大役を果たしています。CYK自体も事業全体の自主運営をめざし、カンボジア人職員による責任の重い新体制作りを始めました。この4月、カンボジア事業運営に多くの実績を持ち、幼児教育プロジェクトを率いてきたカンボジア女性がプノンペン事務所の代表になります。

写真4：自宅で伝統ピダンの復元に取り組むベッ・キムさん（4頁記事参照）。サムロン郡タケオ州



写真5：CYK織物研修センターで織られた日本向け絹帯地。天然藍の青が鮮やかだ。トロピエンクラサン村、タケオ州



カンボジアには、人々の信仰と宗教心に根ざした古代からの絵絣織物・ピダンの伝統があります。仏への寄進物として寺に奉納されるピダンは、手括りの草木染めで緯（よこ）糸を箆（おさ）に添わせ、図柄が現れる布の裏を見ながら織ります。高い技術と根気なしにはできない仕事です。仏教説話や宇宙観を摂り入れた多彩な絵柄のピダンは、200×100 cmほどの美しい絹の布になります。織手がほとんどいなくなった現在、数少ないピダン織りの名手として知られるペッ・キムさんの作品は、洗練された色彩と大胆な図柄、精緻な模様が見る人の心を捉えます。

キムさんはピダンがまだ盛んに織られていた1960年、タケオ州サムロング郡で生まれました。絣織りが得意の母親、それに建設業の父親との間に生まれた7人兄弟の末子です。6歳の頃、母が織る絣の図柄が面白くて、見よう見まねで絣糸を括ったことを思い出します。子どもに絹糸は使わせてもらえず、バナナの葉の茎から採る麻に似た繊維を括り染めました。染料は母が絹糸を染めた残りです。当時、母は中国製の化学染料を、貝殻虫や他の天然染料の補色として使いました。母の絣織1クベン（4m弱）は、いまの5千円相当で売れました。

8歳で入学した頃、ボルボト政権の支配に

なり、勉強したのはわずか2年でした。ボルボト政権下も学校に行きましたが、勉強はなく村の委員の指示で働くだけでした。やがてボルボト政権が倒れ、プノンベンの親戚で絣織りの大家リュウ・サエム師匠に学ぶことになりました。プノンベンでは、読み書きができない人のための塾で勉強もしました。

1982年、サエム師匠が織物工房を開き、招かれて工房で働きはじめました。22歳の時でした。その後8年間、師匠の元で働きました。30歳になり、母と織物を続けたいと故郷に帰りました。7年後に母が他界し、プノンベンに戻りました。2004年に結婚して以来、サムロングで織物を続けていました。ところが3年前に夫が亡くなり、いま姪と織物をしています。でもバイク事故による足の怪我が治らず、健康に優れません。

振り返ると、幼い時に本物の絣織を知り、括りや染めを学んだ頃が一番幸せでした。いまは複雑な絵絣の仕事がストレスになり、しばらく休まないと次の仕事できません。仕事の合間、親戚の女性たちに絣織りを教えます。若い人たちが織った美しい絣を見ると嬉しくて、クメールの伝統を伝えて欲しいと願うのです。いま、「樹」をテーマにピダンを織っています。クメール絹糸はやわらかく、扱いにくいのですが、これを使い復元した古ピダ

ンが福岡市美術館に展示されたと聞いた時は、とても誇らしい気持ちでした。もっと注文が増え、暮らしの助けになるとよいと思っています。



上：ヴェッサンタラ皇子が白象をバラモン僧に与えた説話。パネル画、テプ・プラナム寺。シムリアップ

下：上の説話をモチーフにした絹絵絣・ピダン、145×95 cm、部分、2011年、ペッ・キム作、個人蔵

イベント情報

第21回花まつりチャリティコンサート

武久源蔵(共演 山川節子) 使用楽器フォルテピアノ(復元)

日時 2015年4月5日(日) 18:00～(開場:17:30)
会場 百観音明治寺(東京都中野区沼袋 2-28-20)

伝統文化の復興と伝承「カンボジア伝統絹絵絣ピダン展」

日時 2015年5月13日(水)～17日(日) 10:00～18:00(最終日のみ、16:00まで)
会場 タチカワブラインド銀座スペースオット(東京都中央区銀座 8-8-15 タチカワ銀座ショールーム地下1階)

第14回定時総会・活動報告会のお知らせ

日時 2015年5月30日(土)第14回定時総会 14:00～(開場:13:30)、活動報告会 15:30～
会場 ハロー貸会議室上野(東京都台東区東上野 3-39-5 第一地所上野ビル3階) JR上野駅 東上野口徒歩2分/東京メトロ上野駅 1番出口徒歩1分

子どもたちの明日 113号

発行日:2015年3月11日 発行者:廣戸直江

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所(CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル2A
TEL: 03-6803-2015 FAX: 03-6803-2016
Email: info@cyr.or.jp URL: http://www.cyr.or.jp/

プノンベン事務所(CYK)

#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn, Phnom Penh, Cambodia
TEL: (+855) 23 210849 FAX: (+855) 23 210849
Email: info@cyk.org.kh URL: http://cyk.org.kh/

幼い難民を考える会(CYR)は認定NPO法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。